河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和4年3月20日　第8号

回覧

そろばん学校 始まって150年

1872（明治5）～2022（令和4）

そろばんの素養は一生ものです。おかげで日常の計数に困ることはありません。最近、塾の数は減ってきましたが、実は近代日本の珠算教育は三重県で生れ、国内に広く展開し、今日に至っている文化なのです。以下その歴史を辿ってみます。

共興学舎　明治5年（1872）、三重郡日野の憂国の賢人、井上親亮の尽力によりそろばん塾が開設され、5年後には「共興学舎」という公認の珠算施設に発展しました。ちょうど150年前のことです。

これが令和4年の今に至る日本の近代珠算教育の原点でした。江戸時代の読み書きそろばんの寺子屋とは一線を画す、実学集中教育の場です。

県外出身者も含め生徒達は100日の間、寄宿舎に暮らして「百日算」を修めました。明治21年の卒業生に杉崎幸吉の名が残っています。

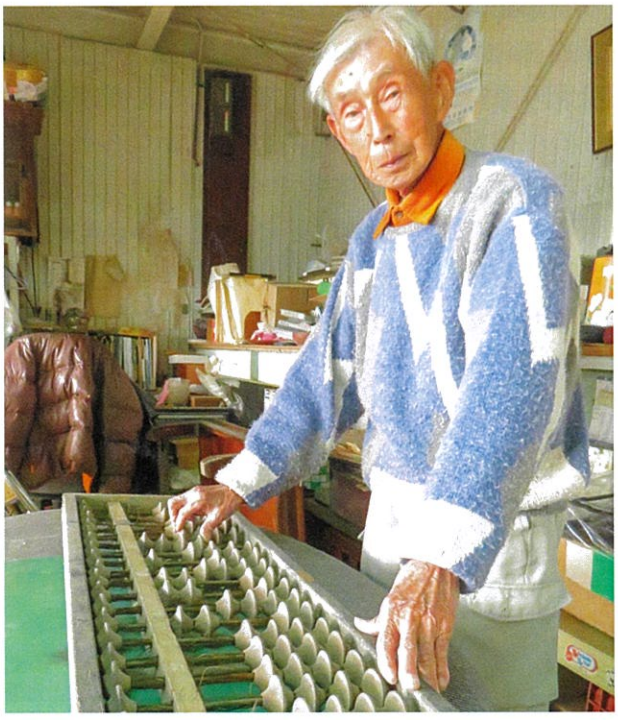
このように河曲から左程遠くない日野の地より共興学舎のDNAは全国に広まっていきました。

河曲同窓会付属速算学舎　明治41年（1908）、神戸にあった高等小学校の卒業生を会員とする「河曲同窓会」により、日野に倣った珠算学校が開設され、大正5年（1916）に「河曲同窓会付属速算学舎」として正規発足します。ここでは組織や授業形態に加えて卒業成績も日野を継承した相撲番付様式に則して、1期生では西村茂吉、2期生では松林良一が成業との発表がありました。

昭和4年（1929）第22期の卒業番付では東方大関として棚瀬登吉の名が挙がり、品行方正の表彰も受けています。同期には萩正富、戸田弘、松林正男、そして神戸南萱町の鈴鹿珠算学校の祖である岡安喜生等が腕を競っていました。

旭進速算学校　三日市にあった「旭進速算学校」も日野直系の珠算塾でした。日野で教えていた山本光治が大正12年（1923）に、地元で高名な佐野正勝を校長に迎え、夜学部を置き、自らは教員として立ちました。その出自ゆえ日野の分校とも仰がれる風格ある学舎でした。授業課程は100日で修了、従って1年で3回、生徒が入れ替わりました。昭和3年（1928）第19回番付表には、南寮大関に青木一之、北寮関脇に西村善一、酒井太郎の記載があります（以上　敬称略）。

その昭和3年に生れ今年94歳の松林巌さんによれば、河曲国民学校高等科進級の13歳の時、連れの村田義忠さん、岡田源一さん達と3ヶ月、毎晩頑張って自転車で通学した、1年上の山路三郎さんも一緒で楽しかった、とのこと。旭進は戦争中の昭和18年（1943）も運営されていて、同年には第



田畑信夫先生　河田町「鈴鹿珠算学園」主宰（平成31年引退）

63回生を送り出しています（その後ここは進学塾に変わり、鈴鹿英数学院となります）。

田畑塾　鈴鹿珠算学園　日野のそろばんDNAは戦後も健在でした。河田町で昭和23年から70年にわたり「鈴鹿珠算学園」を主宰されたのが、令和4年の今も（表紙写真のとおり）白髪痩躯でお元気な田畑信夫先生です。旭進の山本先生とは日野の同期で、2年間の師範修練を経て河田に戻り、町内外の生徒を田畑塾で育てられました。

河田の清水美博さんによれば、小学5年の昭和30年頃、5時始業の後組であるのに初級者の前組授業が始まる4時過ぎには早出して、河田、野辺、竹野、山辺、木田、国分、大谷のみんなと教場の脇で遊びまわった、そろばんを挟んで上級生からは教わり下級生には伝え、学校とは別の深い人間関係が出来て、今もって会えば懐かしく挨拶もする、あそこは人間塾やった、とのこと。

昭和35年に校舎を町の南端に新築、河曲の西半分7地区の生徒を放課後1時間預かり教えつつ、先生は平成31年に引退されました。

ひろせ塾　広瀬珠算学園　昭和20年12月、十宮で広瀬忠寛さんが、弟の万寿郎さんや近所の子供たちを集めて自宅で珠算を教え始められました。四日市で育ってそろばんを修め、海軍航空隊で経理を担当した珠算練達の忠寛さんは、その後しばらく広瀬塾を主宰し、次いでその学業修了を俟って弟の万寿郎さんに塾の運営を託されました。

筆者（松林）は昭和29年入塾生です。塾は十宮と須賀の生徒が持ち込む村の空気と常盤町や萱町からの生徒が醸し出す町の香りがまじりあう、今から思えば異文化を体験できる場でした。

昭和45年、広瀬塾は万寿郎先生の自宅教場から高岡道を挟んだ東側に「広瀬珠算学園」として新築移転します。以後、学園は平成28年の万寿郎先生引退まで、神戸、十宮、須賀の塾生にとって、かけがえのない空間でありつづけました。

ひろせ塾　広瀬珠算学園

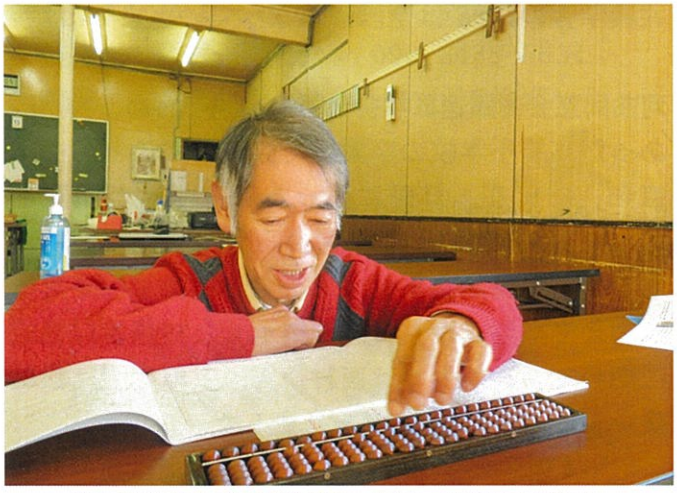
なお、平成19年、万寿郎先生は全国の珠算学校を統括する全珠連より50年在勤を以て、田畑先生は（昭和35年の校舎移転起算により）平成21年に50年在勤を以て、永年在籍表彰をうけられました。又、お二人ともその頃、前後して県や市の地区支部長など要職に就いてみえました。

神戸小山　神戸速算学校　昭和26年、前述の広瀬忠寛さんが神戸小山町に居を移し、新たに「神戸速算学校」を興されました。日野と十宮広瀬塾のDNAがここにも引き継がれたのです。

昭和53年、その忠寛先生が退かれ、以来令和4年の現在まで44年間、学校はずっと広瀬忠雄先生が主宰されてきています。全珠連三重県支部や鈴鹿地区の役員として精力的に働かれ、令和元年には勤続40年により全珠連本部表彰をうけられました。

先生によれば、教師として最も留意しているのは生徒への目線、だそうです。椅子に座って算盤に向かっている生徒には（教場での下の写真にある通り）机の向いに蹲踞して正対し、同じ高さの目線で話しかける、珠の運びは左手で珠を置きつつ左に手を引いていく、とりわけ楽しい初心者への指運びの伝授にはこれが一番、とのこと。

今はそろばんに集中するのみの生徒ですが、忠雄先生から次の世代へ、日野のDNAはしっかり伝わっていて、30年、40年を経たとき、その素養の有り難たさにきっと気づいていることでしょう。



神戸速算学校　広瀬忠雄先生　生徒と同じ高さの目線で

河曲小学校体育館の建替え 令和７年度に本体工事予定

『広報かわの』でお伝えしています河曲公民館・河曲地区市民センター・河曲小学校体育館の「3施設一体型建替え」に関し、鈴鹿市から令和4年2月15日に河曲地区地域づくり協議会へ検討結果の回答がありました。以下、番号(1)～(4)が3施設複合化による利点、⇒（矢印）以下が今回示された鈴鹿市としての検討内容です。

1. 検討事項

(1)公民館と地区市民センターが別棟になっている部分が解消される点。

⇒体育館と複合化することで、公民館と地区市民センターが別棟になっている点は解消できるが、不当定多数の人が小学校に出入りすることとなり防犯上のリスクが懸念される。

(2)兼用スペースが生まれ体育館を利用した共同事業が実施しやすくなる点。

⇒体育館との複合化で得られる兼用可能スペースはトイレや入口の一部に限られる。また体育館を利用した公民館事業等については、一般開放等による利用率が高いことから相互の利用調整が難しく運営・管理が困難になることが懸念される。（複合化を行わない場合においても、共同事業等の実施は可能である。）

(3)児童と公民館利用者により施設に賑わいが生まれる点

⇒体育授業やクラブ活動、一般開放、サークル活動中の音や振動等により、お互いの活動を実施する際に支障をきたすことが懸念される。

(4)災害時には収容避難所として、より多くの避難者の受け入れが出来る点。

⇒災害時において、地域の災害対応を担う支部である地区市民センターと避難所である公民館、体育館が複合化することで災害時の連携がしやすくなるが、複合化の有無にかかわらず、文部科学省の基準により、体育館を建替える場合は、現状の学級数に応じた必要面積(900㎡程度)での建替えが可能となり、現行の体育館(636㎡)より大きくなることが想定され、避難所の収容人員は増える。

2. 検討結果

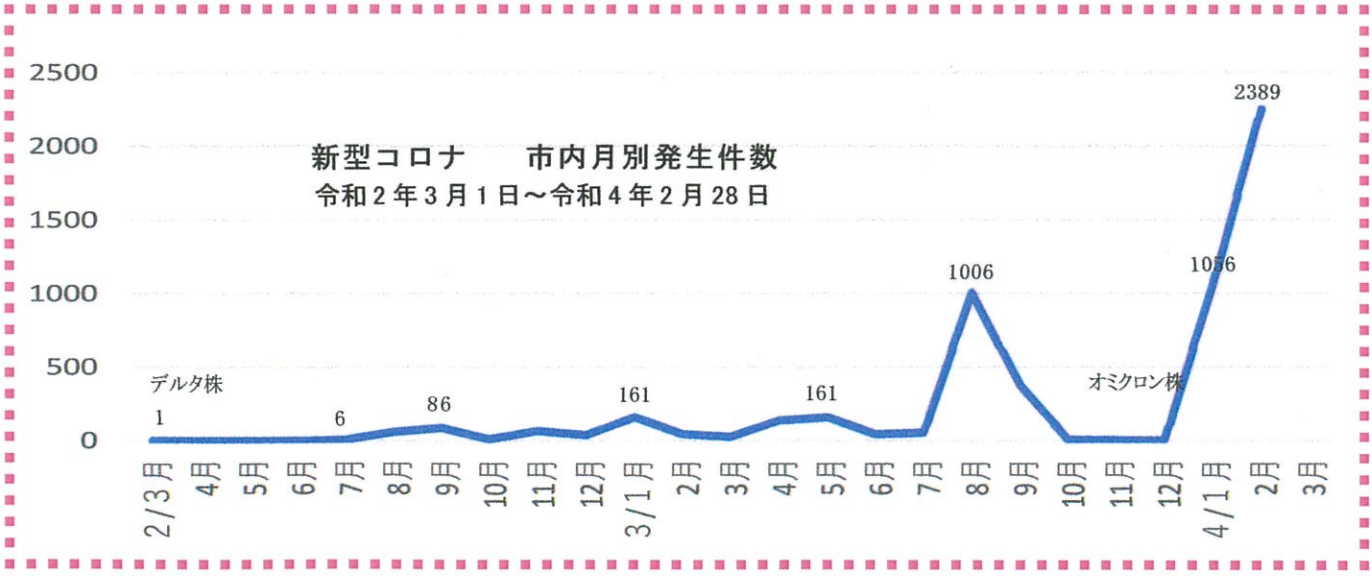
上記（1)～(4）のとおり、3つの施設を複合化して整備するモデル事業に関し、それぞれの施設の特性や利用形態等、様々な観点から検証致しましたが、複合化施設としての整備の利点は少ないという結果となりました。

3. 今後の方向性

今後は「鈴鹿市公共建築物個別施設計画」に基づき、3施設それぞれ個々に整備を進めてまいりますが、最も老朽化した河曲小学校体育館の建替え（改築）を最優先として、令和6年度（基本・実施設計、造成・外構設計）、7年度（建替え工事）、8年度（既存体育館・屋外便所の解体、渡り廊下の建築、外構・駐車場整備等の付帯工事）など早期事業化を図る予定です。

令和10～13年度に、河曲公民館・地区市民センターは現在の施設のままで長寿命化改修を進めます。長寿命化改修までは不具合等がでた場合、その都度修繕を実施して参ります。

なお、改築とは、建築物の全部を除却し、従前のものと著しく異ならない用途、規模、構造の建築物を建てること、長寿命化改修とは、当初の躯体の耐久性及び内装設備機能の向上を行う改修、さらには社会背景を踏まえた機能面の追加などを意味します。



第13回三重県学童軟式野球交流大会　優勝　R3.11.28

よく頑張った令和３年度
少年野球　河曲ライトエース

河曲の少年野球チーム・ライトエースの藤村一仁監督から、今年度の活動成果について、コロナで練習自粛となった２月６日、遠藤義光自治会総代会々長と一緒にお話を聞く機会がありました。

令和３年度チームは６年生８人を含め17名、練習は長期休暇を除いて普段は水土日祝、参加大会はコロナ禍ながら三重県学童野球交流大会での優勝を含め９大会で36勝７敗。その戦績は、

★第13回豊田清杯軟式野球大会　3位
★第13回住友電装杯　三重県学童軟式野球交流大会　優勝
★第28回マックスバリュ東海杯　鈴鹿市学童野球大会　3位
★第37回ホンダカップ　鈴鹿市学童野球大会　準優勝
★第10回住友電装杯　鈴鹿市学童野球大会　3位
★第41回中部リーグ　優勝
★第43回全国スポーツ少年団軟式野球交流三重県大会　初戦敗退
★第33回ライオンズ杯　鈴鹿市学童野球大会　3位
★第11回テイ・エステック杯第33回新人戦　鈴鹿市少年学童野球大会　ベスト4

河曲小グランドでの普段の練習は、主に監督とコーチ３人が担当してみえます。指導方針は、基礎体力と基礎技術の習得を重視しつつ目標を持って継続して努力すること、野球の醍醐味を知りいつまでも野球を続けたいと思える気持ち、仲間と協力すること、仲間と調和をとること、大きな声で挨拶と返事が出来て礼儀正しい言葉使いができること、の５つの大切さを学ばせることです。

「努力を継続する、努力はピンチを助けてくれる、チャンスを活かしてくれるのは努力。」と監督は何時もみんなに話してみえます。

さらに、卒団者８名を送った後、５年生主体の令和４年度新チームが秋の鈴鹿市少年野球大会新人戦では登録選手９名で優勝した、との話も出ました。次世代の河曲を担う児童の活躍ぶりに、同席の遠藤会長も満面の笑みでした。

藤村監督は、「日頃の保護者やコーチの皆さんの助力と支援に心から感謝しています。今回は頑張って幸先よいスタートが切れました。いつも新しい刺激をくれる子供達に感謝です。今後はこの次の次を背負う小学４年３年２年生にライトエースに加わってもらい、野球の醍醐味をみんなで分かち合いたい。加入希望の方は監督まで連絡いただけるとうれしいです。」と話されました。遠藤会長もしっかり応援していく、とのことです。

連絡先　藤村（監督）　090-2438-5631
ＨＰ　「河曲ライトエース」で検索

河曲地区地域づくり協議会広報紙
『広報かわの』　第８号　令和４年３月20日　発行
発行責任者　河曲地区地域づくり協議会 事務局長
事務局　河曲公民館内「地域部屋」電059-390-1295